

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。（建築基準法施行令第93条）

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

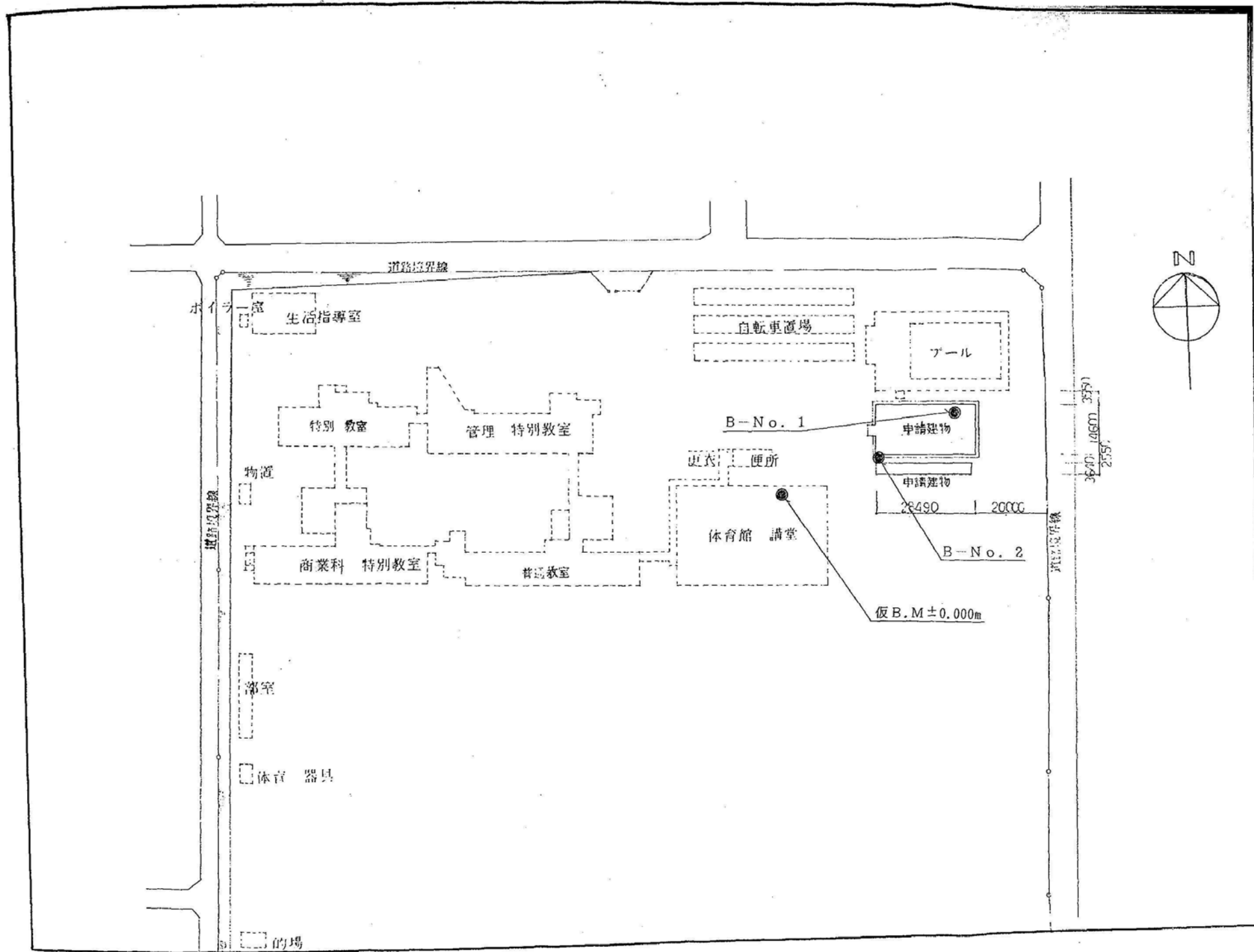
栃木県県土整備部建築課

調査案内図

1:25,000



調査位置図



ボーリング柱状図

調査名 佐野商業高校格技場移転工 - 部室新築工事地質調査

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	B - NO. 1	調査位置	栃木県佐野市出流原町643-5		北緯
発注機関	栃木県栃木土木事務所		調査期間	平成4年6月10日～4年6月11日	東経
調査業者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	K.B.M -0.40m	角	度	90°	方
総掘進長	17.45m	方	北	東	南
試錐機	Y B M O S D A		ハンマー	落下用具	
エンジン	N F - 8 0		ポンプ	S P - 4 0	

標尺 (m)	層高 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験	試験採取	掘進	
									深	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値				
1	-1.60	1.20	1.20	盛土・粘土質ローム	黒茶			上部から有るφ30~50mm位の円礫混じり、粘土質ロームの盛土で有る1.00mに、ローム20cm位有り	3.76	2	14	18	34			
2				砂	黄灰	密	中位	含水大φ5~30mm位の角礫主体にて70~80%混入全体にやや多く漏水有り	1.45	7	8	10	25			
3				砂	黄灰	中位	密	φ50~80mm位の巨礫混在する部分有り崩壊性に富む	2.45	10	11	14	35			
4	-4.25	2.65	3.85	細砂	茶褐		弛	葉のり目、砂質粘土5cm位挟む含水中φ5~10mmの礫混じる	3.45	2	2	2	6			
5	-5.00	0.75	4.80	砂	黄褐		密	含水大全体に若干粘土混じる所々に少量の漏水有り	4.15	2	2	2	6			
6				砂	黄褐	密	中位	φ10~30mm位の角礫主体にて70%位混入	4.45	12	15	16	43			
7				砂	黄褐	中位	密	φ80mm位の巨礫混在する部分所々有り	5.45	15	16	16	47			
8				砂	黄褐		密	7.00m附近より、粘土若干混じる	6.45	2	1	25	28			
9	-9.25	4.25	8.85	粘混じり粘土	黄褐		中位	φ5~15mm位の角礫少量混じる粘性中、含水大	7.45	8	13	15	36			
10	-10.35	1.10	9.95	粘土混じり砂	黄褐		密	全体に粘土混じり、所々に3~5cm位挟む	8.45	1	2	2	5			
11				砂	黄褐		密	φ10~30mm位の角礫約70%位の混入	9.46	15	14	14	43			
12				砂	黄褐		密	含水大所々に少量の漏水有り	10.15	15	14	14	43			
13	-14.10	3.75	13.70	粘土	黄茶褐		堅	粘性やや強い含水大	10.45	21	12	15	48			
14				粘土	黄茶褐		堅	φ10~15mm位の礫混在する所有り	11.15	10	13	16	39			
15				粘土	黄茶褐		堅	φ10~15mm位の礫混在する所有り	12.45	9	11	16	36			
16	-16.65	2.55	16.25	粘土混じり砂	黄灰		密	含水中φ10~30mm位の角礫主体全体に粘土少量混じる	13.45	4	5	4	13			
17	-17.85	1.20	17.45	粘土	黄灰		密	含水中φ10~30mm位の角礫主体全体に粘土少量混じる	14.45	4	4	4	12			
									15.45	4	4	4	12			
									16.15	11	17	20	48			
									16.45							
									17.15	12	16	17	45			
									17.45							

